

1.家庭とは？

子どもが家で身につけたことは、
生涯、ずっと生き続ける。



- 子どもたちのいちばんの願い、それは何だと思いますか？
- 自分を大切にできないならば、子どもを大切にすることもできない。
- 子育ては母親の仕事、そう思っているお父さんは要注意。
- 話せばわかるとは限らないが、話さなければもっとわからない。
- 前向きな親の姿は、きっと子どもに届いている。
- これまでの常識では通用しない問題が増えている。
- あなたの生き方が、子どもへの最高の教育になる。

子どもたちのいちばんの願い、 それは何だと思いますか？



「あなたの家庭にもっと望むことがあるか」と子どもたちに聞いたところ、どの年代の子どもでもいちばん多かった答えは「家族のみんなが楽しく過ごす」でした。そんな当たり前のことを子どもたちが願わざるを得ない現実を、親として真剣に受け止めたいものです。

必要なモノさえ与えていれば子どもは育つ、と思えた時代もありましたが、いまや楽しい家庭は家族が意識的に協力し合わなければなかなか得られません。

子どもにとって心安らぐ居場所になっているかどうか、家庭を見つめ直してみましよう。



安らぎのある楽しい家庭をつくる



自分を大切にできないならば、 子どもを大切にすることもできない。

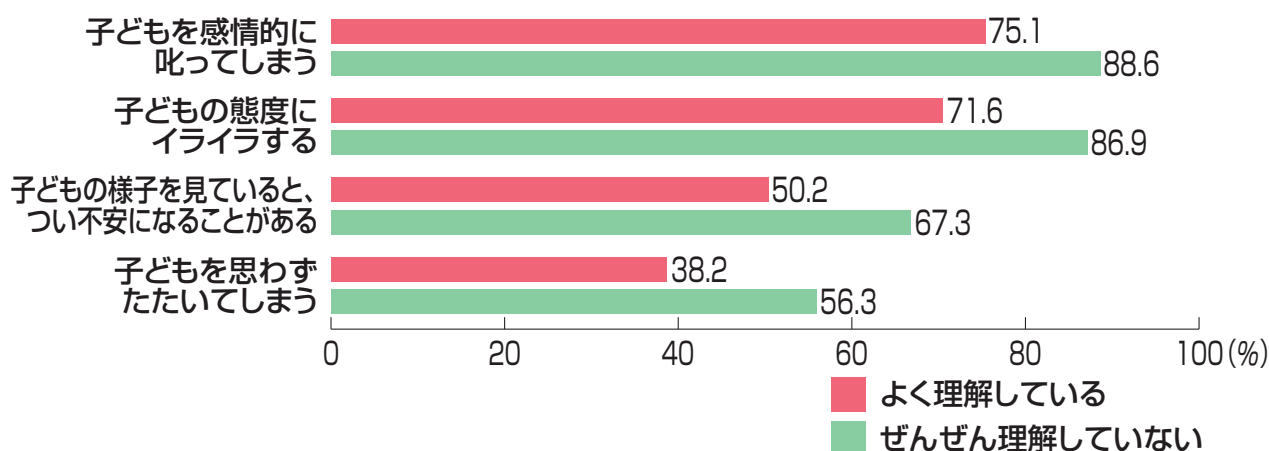


子育ては大事ですが、一日中、わき目もふらずに集中しては疲れてしまいます。親のイライラは、子どもにも伝わっていくものです。

大変な子育てだからこそ、自分の時間をつくり、心を健康に保つことが大切です。夫婦で助け合ったり、子育てサポーターや子育てネットワークといった育児を手伝う仲間や仕組みを活用したりして、リフレッシュする時間をつくりましょう。

親が幸せで笑顔でいる家庭でこそ、子どもも幸せを感じられます。

日頃の生活であること（配偶者の理解度別）



(注) 首都圏、地方市部、地方郡部の幼稚園児・保育園児をもつ保護者6,131名
資料:「第3回子育て生活基本調査(幼児版)」(2008年) Benesse教育研究開発センター

親の笑顔が子どもの笑顔をつくる

子育ては母親の仕事、 そう思っているお父さんは要注意。

家庭での父親の存在感が薄いことが指摘されています。母親だけに子育ての責任がゆだねられ、父親の理解や協力が無いままでは、母親の子育てに対する不安感や負担感が増したり、母と子の関係が密着しすぎたりすることにつながる心配があります。

父親がもっと家庭の中での役割を積極的に担い、夫婦でしつけについてよく話し合っていくことが大切です。

そのためにも、夫婦はお互いに尊重し合い、子どもの前で相手をけなしたり、見下したりすることのないように気をつけましょう。



夫婦で共同して子育てをする



話せばわかるとは限らないが、 話さなければもっとわからない。



夫婦の間、親子の間での会話を増やしていくことが、家庭づくりのすべての基礎になります。ほんとうは夫婦でも親子でも何でも話せる仲でありたいものです。

日々の会話を増やすには、できるだけ一緒に食事をし、お互いにその日にあったことを話すとか、一緒に家事をしたりスポーツをしたり、また地域のボランティア活動に参加したりする、などの工夫をすることが大切です。

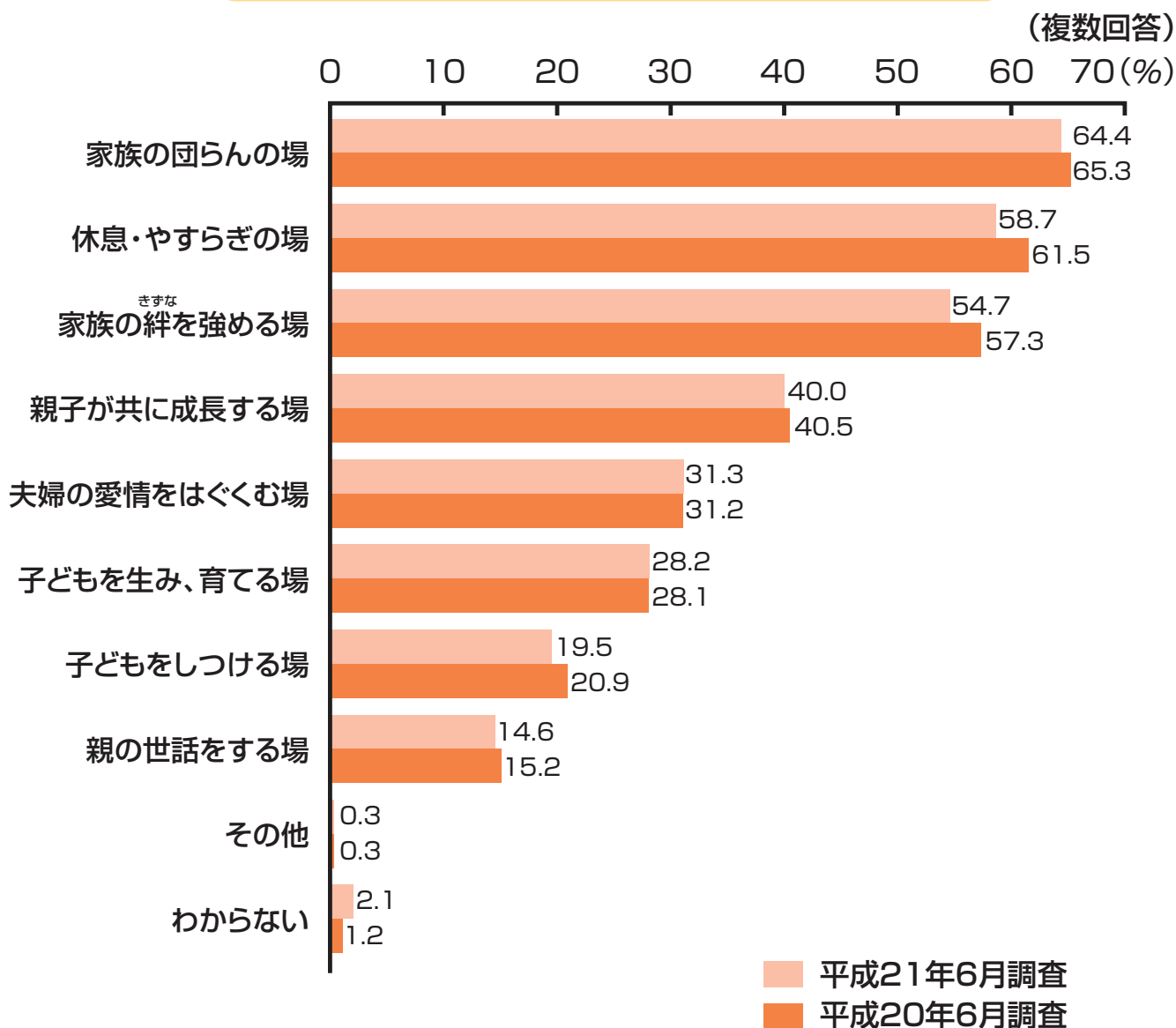
また、思春期になると、男女とも身体が急速に成長し始めます。不安やとまどいなどが^{からだ}ないよう、身体の変化について話してあげることが大切です。



会話を増やし、家族の絆^{きずな}を深める

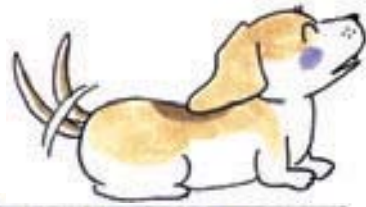
1.家庭とは？

家庭の役割



(注) 全国20歳以上の者6,252人を対象に調査
資料:「国民生活に関する世論調査」平成21年・内閣府

本和加家の場合



ただいまー！



…
おかえり

…おかえり

おかえり

なんだなんだ
しーんとして
会話のない
家だな



お父さんは
最近遅いし
明日も出張で
いないし

どうだ？
早く帰れた
今晚ぐらい
じっくりと
家族で話を
しないか？



大介 もう中2だから
勉強が大変だろ？

うん…あ…



何か話したい
ことはあるか？

ねえどうして
お母さんも
お兄ちゃんも
急に黙るの？



明日お父さんが
いない間に
おいしいモノ食べに
行くんでしょ？

まだどこに
行くか
決めてないよ

…オレ以外は
仲が良いよって
よかったな！

前向きな親の姿は、 きっと子どもに届いている。



ひとり親家庭や共働き家庭では、親が働きながら子育てをするため、ゆっくりと子どもと接する時間が少なくなりがちです。しかし、子を思い、より良い将来に向かって努力する親の姿は、しっかりと子どもたちの心に響いているはずです。

また、さまざまな悩みなどは、ひとりで抱え込まず、親類や友人の協力を得たり、地域の相談窓口や子育てサポーターや子育てネットワークといった、子育てを応援・サポートしてくれるシステムなどを積極的に活用したりしましょう。



ひとりで悩まず、前向きに子育てしよう

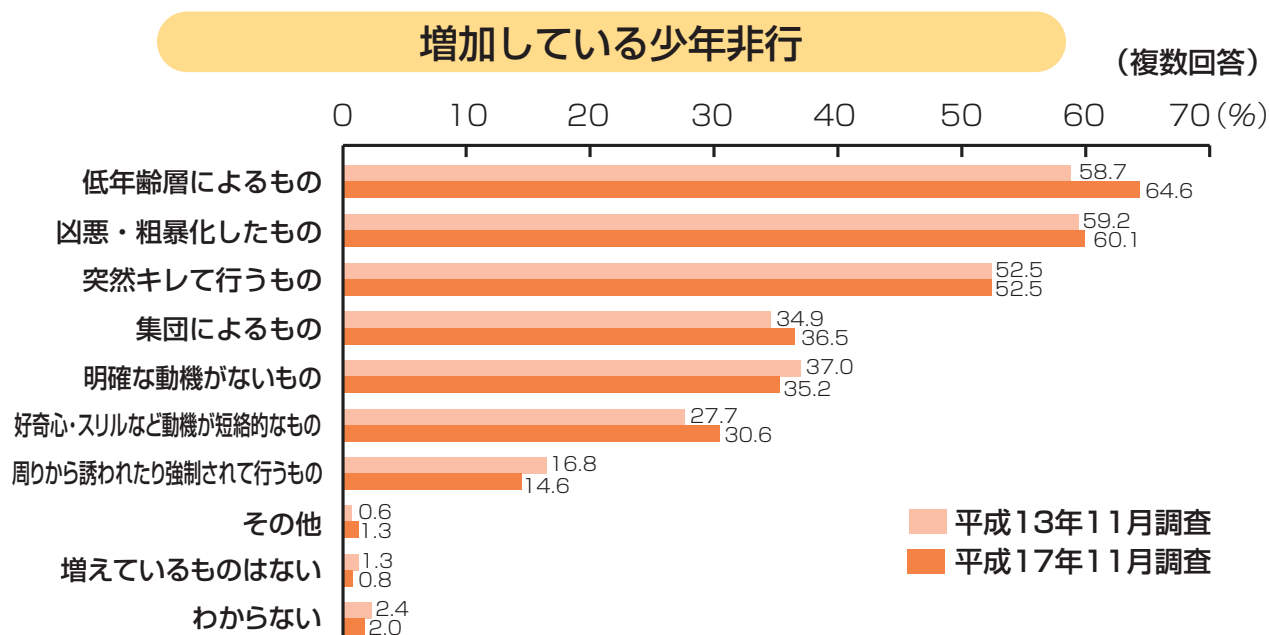


これまでの常識では通用しない 問題が増えている。



子育ての不安、いじめや不登校などで悩みを抱えたとき、配偶者や親・きょうだい・友人などに相談することが多いのですが、それだけでは解決できないときもあります。社会の急速な変化や家庭の多様化から、これまでの教育や子育ての経験だけでは適切な助言が難しい問題も多いからです。そういうときは迷わず専門家に相談しましょう。

学校の先生・スクールカウンセラー・家庭教育相談・教育センター・警察の少年相談窓口・児童相談所・精神保健福祉センターなどさまざまな相談機関があります。それぞれの特色を知り、相談内容にふさわしい機関を選び勇気を出して相談してみましょう。



資料:「少年非行等に関する世論調査」平成17年・内閣府

時には専門家の知恵を借りる

あなたの生き方が、 子どもへの最高の教育になる。

これまでは勤勉で従順な人が社会から求められましたが、これからは問題を解決するために自分で考え、工夫し、行動する、勇気ある社会人が求められます。

自分の会社の利益だけでなく、家庭や地域、そして社会全体にまで目を配り積極的にかかわれる人に育てるために、まず親自身がその大切さを理解し、努力・挑戦することが大切です。



より良い社会をつくる努力を子どもに見せる